

みんなのしあわせが
私のしあわせに



TERRA PEOPLE ASSOCIATION

認定NPO法人地球市民の会



2021 Annual Report

2021.4 - 2022.3

認定NPO法人 地球市民の会 | 2021年度 年次報告書



ピンチを機会と捉え、柔軟に対応してきた一年

2021年度も新型コロナウイルス感染症は終息することなく、事業に大きく影響を与えました。対面型の交流事業は、コロナが出始めた2020年から縮小し、未だに国際交流事業はできない状態です。また、2021年2月に起きたミャンマー政変により、現地事務所の一時的な閉鎖、事業縮小や延期に加え、スタッフの安全確保に奔走するなど、様々な対応が求められました。

これらの困難の中でも、海外事業では、事業の理解を促進し、新しいファンをつくるために、オンラインを活用したイベントやファンドレイジングを実施してきました。オンラインだからこそ、日本各地の方々に参加いただくことができ、新たなコミュニケーションの場が生まれています。現地には行くことができない状態がまだ続きますが、今後現地に行ける状態になった際には、様々な事業に参画していただけるような関係構築ができつつあります。

また、国内事業ではここ近年毎年のように発生する災害に対する支援、トンガ噴火支援、2022年に入ってからウクライナ危機における避難民受け入れなど、緊急支援を中心に対応してきた年でした。その中、緊急支援や子どもの居場所づくり事業など、当会だけで対応する形でなく、県内のCSOを中心としてネットワーク化を図り、複雑な課題を連携して解決できるよう進めてきました。

そして、2021年からは、会の組織基盤強化に注力しています。コロナ、不安定な海外情勢、災害等、これまで経験したことのないようなピンチが多く発生しています。そのような見通しが立てにくい不確定な時代だからこそ、地球市民の会の存在意義を思う存分に発揮できるよう、理事および事務局で対話を重ねています。

目次	3	2021年度 トピック	15	2021年度 活動計算書・賃借対照表・監査報告
	4	2021年度 事業概要	16	2022年度 中期方針
	5	スタッフ一覧	18	私たちについて
	6	事業紹介	19	ご支援について

NEWS 3 topics

2021年度は、ミャンマーのクーデターに遭った方々への復興支援、頻発する自然災害への支援など、「災害や人災への対応」がテーマの一年でした。より柔軟でスピーディーな行動ができる組織を目指し、理事と事務局で多くの対話を重ね、組織基盤強化に取り組んできました。



1 ミャンマー復興支援

2月1日に起こったクーデターによる政変で、ミャンマーの人々の生活が一変しました。各地で衝突が起き、避難生活を余儀なくされた人も多くいます。食料、医療品、衛生用品へのアクセス困難、農業生産や教育継続のための資金不足、物価上昇など多くの問題が発生しました。必要な場所に必要なものが届けられるよう、現地パートナーと連携しながらニーズを探り、支援を実施しました。現在も継続支援を行っています。



2 災害支援

国内で頻発する自然災害に対応するため、佐賀災害支援プラットフォームを設立。令和3年8月の大雨では、佐賀県武雄市、大町町などの被災地域の支援にあたりました。2022年1月には、トンガで海底火山の大噴火が発生。火山灰が積もり、水や食糧なども手に入りづらい状況となりました。多くの方から支援金をお預かりし、トンガ大使館へ届ける役割を当会が担いました。



3 組織基盤強化

不安定な時代に適した活動をスピーディーに実施できるよう、組織力の強化に取り組んでいます。外部コンサルタントの方にご協力いただき、組織診断を実施。理事と事務局員を「理事会改善チーム」「新規事業立案方法検討チーム」「評価方法検討チーム」の3チームにふり分け、何度も会議を重ねてきました。合宿では、普段の理事会ではなかなか話さないプライベートなことも共有。各個人のやりたいことを、応援しながら実現できる組織になるよう、改善を続けています。

活動領域

世界とつながる機会をつくる

さまざまな形で世界とつながる機会を提供し、「地球市民」として行動できる人を増やします。コロナ禍で世界の人々と直接交流する機会が減った中でも、オンラインの交流やファンドレイジングを実施しました。地域や世界の課題を自分事として考えられる地球市民を育成しています。

地域を元気にする

国内・海外問わず、その地域に住む方が主体性を発揮し、いきいきとした地域社会を創造するサポートを行っています。セクターを超えて連携しながら地域の課題を解決し、持続可能な地域づくりを行います。

今、つらい人に寄り添う

自然災害、紛争、政変などが日本や世界各地で発生しており、巻き込まれた方々はつらい状況に陥っています。今、支援を必要としている人に寄り添い、迅速で適切な支援を、他団体と連携しながら行っています。

学ぶ機会をつくる

日本を含むアジアの脆弱な立場に置かれた人や子どもに対して、技術的・職業的スキルの習得や教育へアクセスできる機会を提供しています。将来の地球市民として、自分の地域の発展のために尽力できる人材を育成します。

2021年度の活動

活動領域	事業内容	実施場所	実施日時	紹介ページ
世界とつながる機会をつくる	SDGs 推進プログラム	日本	通年	6
	ミャンマー交流	ミャンマー	通年	7
地域を元気にする	子どもの居場所づくり	日本	通年	8
	地球市民共生事業（在住外国人支援）	日本	通年	9
	ミャンマー農業支援	ミャンマー	通年	10
	ミャンマー開発	ミャンマー	通年	11
	ミャンマー環境保全	ミャンマー	通年	12
今、つらい人に寄り添う	災害等緊急支援	日本	通年	13
学ぶ機会をつくる	奨学金	ミャンマー・スリランカ	通年	14

スタッフ一覧

日本 / 本部事務局（佐賀）

佐賀県佐賀市にある本部事務局。国内事業をはじめ海外事業のコーディネート業務などを行っています。



岩永 清邦
事務局長



藤瀬 伸恵
事務局長次長 /
ミャンマー事業担当



山路 健造
国内事業 /
広報担当



武富 有香
奨学金事業 /
国内事業担当



古泉 志保
国内事業担当 /
地域おこし協力隊

ミャンマー / ライレンピー持続可能開発センター

ミャンマーチン州ライレンピーにあり、循環型農業やアグロフォレストリー農法の研修を実施しています。



ウ・ザベタン
センター長



ウ・ゾー・リン



マ・グンティ



マ・トゥライ・ゼ



ウ・ビエラ



ウ・ゾータン

日本 / 名古屋デスク

ミャンマー事業のコーディネート業務に加え、近隣へのファンドレイジングや講演活動を展開しています。



柴田 京子
ミャンマー国代表 / プロジェクトマネージャー

ミャンマー / 循環型農業講師

ミャンマーの各村で実施する循環型農業研修の講師です。



ウ・ミョー・ミン



クン・ティッ・サン



クン・マウン・ヨー

ミャンマー / タウンジー事務所

ミャンマーシャン州南部のプロジェクトを管理しています。



鈴木 亜香里
プロジェクト
アドミニストレーター



サイ・トゥン・エー



クン・ゾー・ゾワ・マウン



マ・モー・モー・トゥエ

ミャンマー / チン州・ミンダ事務所（閉鎖中）

チン州のプロジェクトを管理する事務所です。現在情勢の悪化により閉鎖中です。



コ・マンリン



コ・ベンジャミン



マ・ティリバイン



コ・ヘイン・ラッ・テッ

ミャンマー / タンポジ農業畜産研修センター

ミャンマーシャン州ニャウンシュエにあり、高校生が教育を受け、循環型農畜産業を学ぶ場です。



マ・ワー・ワー・ライン
センター長



ウ・ウイン・シュエ



ドー・キン・サン・ウー



クン・ゾー・アウン
センター長



クン・シュエ・トー



クン・ティー・レー

ミャンマー / ナウンカ村落開発センター

ミャンマーシャン州ナウンカにあり、循環型農業研修を実施しています。



クン・ゾー・アウン
センター長



クン・シュエ・トー



クン・ティー・レー

2021 Annual Report

事業紹介

世界とつながる
機会をつくる

学校、大学、企業でSDGsの取り組みを推進



ハイライト

- 1 SDGsを自社への取り組みとして導入するSDGs経営支援プログラムを県内2社の企業様へ提供。
- 2 コロナ禍で対面型の国際交流事業ができない中、「交流を止めない」ためにオンラインを活用したSDGs Academy SAGAを実施し、日中韓タイの大学生13人が参加。
- 3 年間を通じて学校、企業、行政へ講演を実施。受講者は4,000人を超え、SDGsの理解・認知向上に貢献。

2030年までの世界共通の目標であるSDGsは、県内でも少しずつ認知度が上がっています。将来を担う若い世代に対し、今後達成したいSDGsの課題や、自分たちでできることについて考えるSDGs Academy SAGAやリベラルアーツを実施しました。また、SDGs経営支援プログラムでは、環境コンサルタント、アミューズメント事業を手掛ける企業様へのSDGs導入支援を行いました。2021年度は、経営者だけでなく、従業員が当事者意識をもち、SDGs達成のために会社全体で動き出していけるようにプログラムを組みました。複数の企業や団体が連携してSDGsを達成していくことを目指していきます。

受益者の声

山口 清孝さん
株式会社メリーランド
アミューズメント事業部
スポーツ課 主任



2021年7～10月、地球市民の会様よりSDGsの研修をして頂きました。我が社から10名のタスクチームが選出され、指導の下SDGsをゼロから学び、意見を出し合い企業行動憲章の作成までを、なんとか形にすることが出来ました。私たちタスクチームだけでは到底成しえなかったと思います。2030年の達成に向け動いていきます。

実施概要

実施期間 2021.4 - 2022.3
 受益対象者 企業2社、受講者（参加者）4,481人
 支援者 302人（ふるさと納税）
 従事者 5人

支援連携団体



世界とつながる
機会をつくる

コロナと政変の危機に直面しながらも オンラインを駆使した活動を展開 「ミャンマーに地球市民の会あり」と存在感を発揮



ハイライト

- 1 ミャンマー政変→支援者さんと一緒にコーヒーのクラウドファンディングで300万円を達成! ポジティブな発信で新規支援者が増加。
- 2 専門家を派遣できない→オンラインで日緬の大学生が交流しながら食糧生産について学ぶワークショップを実施。
- 3 スタディーツアーができない→テーマを決めたオンラインスタディーツアーを毎月実施し、大人気。全4回の自分で作るツアーも実施。

今年のミャンマーは、コロナと政変で大変な状況でした。チン州での事業がストップ、日本人が出張に行けない、スタディーツアーができない、研修ができないなど、制約が多く不安の一年でした。それでも、できることを探して一つ一つ実行してきました。オンラインを利用した寄付集めや事業実施により、全国の支援者さんにつながる事ができ、ミャンマー好きの間ではある程度の知名度を獲得することができました。これらの活動は、コロナや政変がなければ実施していなかったと思います。まだまだ大変な状況が続きますが、現地で活動を継続できているという強みを生かし、知恵を絞り、工夫をしながら乗り越えていきます。

参加者の声

田中 友梨香さん
オンラインツアー参加者



参加する前はミャンマーについてあまり知りませんでしたが、このツアーを通して、ミャンマーの教育制度やアートを学ぶことができました。ミャンマーと日本がつながる貴重な経験だと思いました。私はこのツアーに参加して、自分の将来のキャリアを考えるきっかけにもなり、とても良かったです。

実施概要

実施期間 2021.8 - 2022.3
 受益対象者 ミャンマー連邦共和国 13人、日本人参加者 182人
 支援者 クラファン 620人
 従事者 15人

補助金・助成金

アジア・市民交流助成金（独立行政法人国際交流基金アジアセンター）
 九州地域NGO活動助成金事業（NGO福岡ネットワーク、真如苑共催）
 （公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団）



地域を
元気にする

地域の子どもたちが 安心して繋がり合える“心の居場所づくり”を



ハイライト

- 1 佐賀市委託のもと、主に佐賀市内で活動している既存居場所への訪問やニーズヒアリング、新規立ち上げ希望者の相談受付を実施。
- 2 佐賀市北部郵便局14局や企業と連携し、家庭から食品を寄付してもらい、各子ども支援をしている団体へ配布するフードドライブを開始。
- 3 居場所関連の団体と連携し、子どもたちの自己肯定感や自己有用感を上げるための活躍の場づくりイベントを実施。

佐賀市委託のもと、当会が子どもの居場所づくりコーディネーター支援を始めて5年目になります。佐賀市内にある既存の居場所へ直接訪問しヒアリングしながら課題解決に努めました。また、新規立ち上げを希望する方へのフォローも行い、アドバイスや既存の居場所への見学案内等も行いました。一方で、他団体や企業との連携のもと、居場所支援の強化にも努めました。特に日本郵便株式会社様や第一生命様と連携したフードドライブによる食支援は、各居場所の団体様へ提供することで大変喜ばれました。そして、他NPO団体や居場所団体と合同で実施した「どんぐりキッズ市場」は、今や子どもたちの活躍の場として定着しつつあるイベントになっています。

支援者の声

橋口 猛さん
金立郵便局 局長



昨年の10月より、佐賀市北部の14郵便局でフードドライブ運動の一助として、提供食品の回収ボックスを設置しています。お客さまからお声掛けいただくことも多くなり、定期的にご支援いただけるようなお客さまも増えてきています。今後もこの活動が長く継続できるよう、多くのお客さまにご案内ができればと思っています。

実施概要

実施期間	2021.4 - 2022.3
受益対象者	50人
支援者	団体・個人20件
従事者	従事者 2人

支援団体・企業
佐賀市
日本郵便株式会社 佐賀北部会
第一生命 佐賀支社 佐賀東オフィス
田島株式会社
一般社団法人さが・こども未来応援プロジェクト実行委員会
循環子ども居場所づくり実行委員会



地域を
元気にする

誰もが母語で、災害情報を受け取れる社会を目指して



ハイライト

- 1 佐賀在住タイ人グループ「サワディー佐賀」の災害情報・コロナ情報発信ノウハウをミャンマー、スリランカの各グループへ。
- 2 令和3年8月佐賀豪雨では佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)が担当するベトナム語、タガログ語も含む計5言語で多言語情報発信
- 3 外国人住民に対し、支援を受けるだけでなく、炊き出し等の「支援側」の意識を持ってもらうための防災セミナーを開催。

佐賀を襲った2度の豪雨。2019年、そして2021年と記録的な雨が降り、多くの外国人住民から不安の声が寄せられました。地球市民の会では、佐賀県のタイ人グループ「サワディー佐賀」で培ってきた災害情報のタイ語発信のノウハウをさらに広げるべく、ミャンマーとスリランカのグループ化をサポート。平時からグループ化を進めていたこともあり、21年8月の豪雨時には、最速で、県災害支援本部会議終了から30分で翻訳、ダブルチェック、発信までできた言語もありました。同年後半からは、さらにそのノウハウをカンボジアのクメール語にも広げました。生活上の悩みや災害情報など、少数派の言語でも対応できる仕組みづくりを進めています。

支援者の声

ナイン・ココ・トゥンさん



県内でのワクチン接種の情報やコロナ感染の更新情報をリアルタイムで知ることができ、県内のミャンマー人達にシェアすることができています。クーデターで母国にいる家族を心配する在日ミャンマー人にオンライン相談会を開いて相談に乗ってくれたことは本当に助かりました。これからも一緒に活動し、安全、安心な住み良い町づくりを進めていきます。

実施概要

実施期間	2021.4 - 2022.3
受益対象者	佐賀県在住の外国人住民 6,391人
支援者	支援者 約400人
従事者	従事者 2人

支援連携団体





持続可能な農業生産を可能にし、 みんなが笑顔で住み続けられる地域にするために



ハイライト

- 1 「森を焼く」から「森を育てる」へ。日陰栽培のコーヒーで、自然と共存し動物もヒトも笑顔になれる農業を推進。
- 2 肥料や農薬が値上がりしている今こそ「循環型農業」が必要な時。現地スタッフを中心として、事業開始時から継続している循環型農業技術の普及に尽力。

ミャンマーの主要産業である農業。持続可能な農業生産が持続可能な生活に直結しており、重要な役割を果たします。また、自然との共存も大きな課題の一つです。当会ではこれまで一貫して農業技術の普及を行ってきており、今年度も現地スタッフを中心として農業技術の普及に取り組みました。ミャンマー最貧地域に位置付けられているチン州では、焼畑にかわる現金収入確保手段として、換金性のあるコーヒーを森で栽培し、地域の収入向上を目指すとともに、過度な伐採や焼畑の抑止に取り組んでいます。また、コロナで集会の制限はありつつも、感染症拡大防止策をとりながらシャン州・チン州の両州で循環型農業の研修を継続的に実施しました。

担当者の声

ウ・ザベタン

ライレンピー持続開発研修センター長



チン州・ライレンピーではコーヒーを栽培したい農家が徐々に増えてきました。2021年に私たちはコーヒー農家のグループ「Coffee Farmers Association」を作りました。将来的に収穫、集荷、出荷、加工、有機認証申請などを自分たちの手で行うためです。「自分たちの手で誇れる地域を作る」を合言葉に、みんなで力を合わせて頑張っています。

実施概要

実施期間	2021.4 - 2022.3
受益対象者	ミャンマー連邦共和国 1,471人
支援者	3団体、69人
従事者	17人
補助金・助成金	イオン環境活動助成 (公益活動法人 イオン環境財団) トヨタ環境活動助成プログラム (トヨタ自動車株式会社) 日本NGO連携無償資金協力(外務省) ライレンピーコーヒーアンバサダー Giveone ハチドリ電力



地域の生活向上を目指し、 持続的な維持管理や地域のニーズに合った活動を



ハイライト

- 1 ミャンマー村落部では、農業で生計を立てている人が9割以上。農業用の堰整備により、農業収入の増加が実現。
- 2 飲料水や生活水の確保も大きな課題。水汲みの時間や手間がなくなることで、できることが拡大。
- 3 地域のニーズを把握するため調査を実施。もう一度原点に立ち返り、必要なことを必要な場所に届けられる努力を。

今年度は農業用水の安定供給を目指した農業堰や飲料水・生活水の供給のための給水施設整備等を行いました。同時に「ハコだけ作って終わり」にしないために、地域で維持管理方法を考えました。地域住民で組織された「維持管理委員会」による使用規則や維持管理規則の制定、維持管理基金の創出等、自らルールを決め、それを実践していく。当たり前のことですが、大切に使うためには大事なことです。また、現時点で何に困っているのか?を把握するため、聞き取り調査も行いました。これはコロナや政変で思うように事業ができない中、一度立ち止まり「本当のニーズに応えるにはニーズを知ることが大切」という原点に戻り実施したものです。

受益者の声

ロン・エイン・ターさん
マインビン地区在住農家



田んぼに水を引くのは重労働です。クワで地面を掘り、土を背負って運ぶ作業が毎年10日以上続きます。田んぼに泊まりこんで作業をしました。それでも田んぼに水を確保できず、稲作を諦める農家もいました。日本の皆さまのおかげで農業堰ができた今は、毎年の修繕も必要なく、安心して米を作ることができるようになりました。

実施概要

実施期間	2021.4 - 2022.3
受益対象者	ミャンマー連邦共和国 2,171人
支援者	3団体
従事者	7人
補助金・助成金	NGO海外援助活動助成 (一般財団法人 ゆうちょ財団) 日本NGO連携無償資金協力(外務省) 委託事業 (東洋大学国際共生社会研究センター)



森や湖を守りながら農家の収入向上も目指す！ 様々なアプローチを組み合わせた環境保全活動



ハイライト

- 1 森が消えていく村でアグロフォレストリーを実施。森を守ることが、水源を守り、人々の収入向上も推進。
- 2 インレー湖を守るため、水質調査・植林・かまど配布・ごみ回収・水草堆肥づくり・環境研修を組み合わせた包括的なアプローチを実施。
- 3 ローカルスタッフが提案・実施したごみゼロ村プロジェクト。SNSも利用し、「うちの村もごみゼロにしたい」と声があがるように。

ミャンマーのインレー湖は、観光地であり、生活の場であり、農業や漁業の場でもあります。人々は自然と共に生きており、環境悪化の影響を受けやすいため、環境保全活動は重要です。しかし、生活困難のため、過度な焼畑や伐採等で自然から収奪せざるを得なくなっています。当会では、環境保全と収入向上の両立を目指し、収入になる果樹を植えるアグロフォレストリーを進めています。環境研修と持続的な環境保全活動の実践を同時に行い、約2,000名への研修を実施、植林本数は18,630本になりました。コロナやクーデターの影響で研修ができないこともありましたが、助成団体様のご理解とスタッフの頑張りのおかげで、なんとか事業を進めることができました。

担当者の声

ケン・ゾー・ゾワ・マウン
タウンジー事務所



ゴミゼロ事業を担当しています。村の人たちは以前は「ゴミを拾うのは恥ずかしい」という意識を持っていましたが、今は「ゴミを捨てるのは恥ずかしいに変化しています。自分たちの力で村を美しく保とうという責任感が出てきたようです。他の村からも希望が出ていますので、来年は活動範囲を広げていきたいです。

実施概要

実施期間	2021.4 - 2022.3
受益対象者	ミャンマー連邦共和国 3,206人
支援者	6団体
従事者	8人
補助金・助成金	国際協力NPO助成 (公益財団法人 日本国際協力財団) 積水ハウスマッチングプログラム (積水ハウスマッチングプログラムの会) 三井住友銀行ボランティア基金 (株式会社 三井住友銀行) 緑の募金(公益財団法人国土緑化推進機構)



地球市民として、 今、困っている人へ手を差し伸べる支援を



ハイライト

- 1 令和3年8月の大雨では、県内のCSOを中心とした58団体が連携し、佐賀県内の被災地支援を実施。
- 2 トンガ海底火山の大噴火では、元・青年海外協力隊のトンガ隊員が中心となって寄付を募り、大使館を通じて支援を実施。
- 3 ミャンマー復興支援基金で800万円以上を集め、10回の支援を実施。ウクライナの避難民を、佐賀の行政や民間が連携して受け入れ。

ここ数年、佐賀では毎年のように豪雨が発生しています。当会では、県内のCSOや行政と連携し、被災地域の支援にあたりました。また、2022年1月に発生したトンガの海底火山の大噴火では、クラウドファンディングで寄付を募り、963,670円をトンガへ送りました。2021年2月のミャンマー政変を受け、5月に復興支援基金を立ち上げ、10回の支援を実施しました。そして、2022年2月のウクライナ危機で発生した大量の避難民。佐賀では官民が連携して受け入れを始めています。当会は「地球市民」として、国内外を問わず、今困っている方への迅速な支援を行っていきます。

受益者の声

公門 寛稀さん
大町地域おこし協力隊
災害支援担当



貴団体には発災直後より、被災世帯へ訪問調査の中心となりボランティア調整や情報整理にご協力頂きました。現地のニーズを把握したいと思っいる中で、私自身町内の支援調整で手がまわらない状況下に常駐型の支援を頂けた事は本当に助かりました。県内で共に支援活動に対応頂ける団体さんがいる事は心強いです。

実施概要

実施期間	2021.4 - 2022.3
受益対象者	約20,150人
支援者	約700人
従事者	12人
連携団体	佐賀災害支援プラットフォーム 佐賀県 佐賀市 佐賀県社会福祉協議会



学ぶ機会をつくる

奨学金支給を通して ミャンマーやスリランカの子もたちが 教育を受け、心の交流ができる環境づくり



ハイライト

- 1 新型コロナウイルスの影響で家に帰れないタンボジセンター寮生の生活支援として、タンボジ特別支援基金クラウドファンディングを実施。
- 2 2年間ともに学校へ通えていない状況を打破するため、ミニライブラリー事業や教育緊急支援など、別の教育支援を検討。
- 3 オンラインさとおや交流会を実施し、ミャンマーの社会情勢や教育の現状について、さとおやさんに直接お伝えする場づくりを。

コロナ拡大と政変の二重苦により、ミャンマーの学校は休校が続きました。タンボジセンターには家が遠く帰れない子が3名おり、農業や畜産をしながら過ごしました。彼らの生活費不足が懸念されたため「タンボジ特別支援基金」クラウドファンディングを実施したところ、目標金額を大きく上回る形で達成しました。パラヒタにいる子も同様、学校へ通えていません。また、スリランカについてもコロナの影響は強く、休校と再開が繰り返されました。2022年11月に完全再開されましたが、度重なる休校と再開で学校側の対応が追い付いていません。当会より現地状況をお伝えすべく、オンラインにてさとおやの皆さんとの交流の場を設けました。

支援者の声

豊増 裕美子さん



さとごに寄付という形で支援しています。さとおやの集いに親子で参加し、子ども同士が画面越しで話したり、タンボジのセンター長からチリソースのレシピを教わったり等私自身も地球市民としての仲間のような感覚です。今後は、現在学校へ通うのが困難な状況にあるさとごたちの心に寄り添えるような支援ができたと思います。

実施概要

実施期間 2021.4 - 2022.3
 受益対象者 ミャンマーのさとご 74人
 スリランカのさとご 40人
 支援者 さとおや会員 152 (団体・個人)
 従事者 4人

2021年度 活動計算書・貸借対照表・監査報告書

活動計算書

(単位:円 | 税込)
自 2021年4月1日 至 2022年3月31日

経常収益	
【受取会費】	2,793,000
【受取寄付金】	
受取本部寄付金	259,476
受取国内寄付金	23,311,474
受取奨学金寄付金	3,950,785
受取ミャンマー寄付金	9,367,778
【受取寄付金】合計	36,889,513
【受取助成金等】	
受取国内助成金	5,100,000
受取ミャンマー助成金	58,216,288
【受取助成金】合計	63,316,288
【事業収益】	
国内委託金収益	6,824,516
ミャンマー委託金収益	779,900
国内事業収益	1,596,861
ミャンマー事業収益	634,080
【事業収益】合計	9,835,357
【その他収益】	1,818,155
経常収益 合計	114,652,313

経常費用	
【事業費】	
人件費	27,528,158
その他経費	57,796,774
【事業費】合計	85,324,932
【管理費】	
(人件費)	7,564,241
(その他経費)	2,507,854
【管理費】合計	10,072,095
経常費用 計	95,397,027
当期経常増減額	19,255,286
【経常外収益】	11,517,107
【経常外費用】	11,593,039
税引前当期正味財産増減額	19,179,354
法人税、住民税及び事業税	81,000
当期正味財産増減額	19,098,354
前期繰越正味財産額	128,510,472
次期繰越正味財産額	147,608,826

貸借対照表

(単位:円 | 税込)
2022年3月31日現在

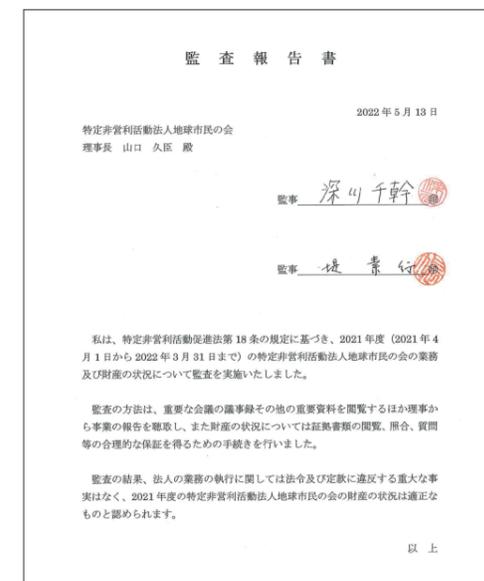
資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	16,210,753
現金	134,658	前受金	824,000
普通預金	132,150,690	預り金	439,640
現金・預金計	132,285,348	仮受金	118,000
(売上債権)		流動負債計	17,592,393
未収金	99,082	負債合計	17,592,393
売上債権計	99,082		
棚卸資産	27,403		
貯蔵品	0	【正味財産】	
棚卸資産計	27,403	前期繰越正味財産額	166,490,588
(その他流動資産)		当期正味財産増減額	△ 37,980,116
立替金	97,993	正味財産計	128,510,472
預け金	0	正味財産の部 合計	128,510,472
ミャンマー未使用資金	11,593,039		
流動資産合計	144,102,865		
【固定資産】			
(投資その他の資産)			
出資金	2,000,000		
固定資産合計	2,000,000		
資産合計	146,102,865	負債・正味財産合計	146,102,865

財産目録

(単位:円 | 税込)
2022年3月31日現在

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	148,302,292	未払金	15,315,733
手許現金	175,800	前受金	1,063,000
普通預金	148,126,492	預り金	543,652
未収金	1,506,740		
棚卸資産	17,072		
貯蔵品	188,000		
預け金	1,000,000		
ミャンマー未使用資金	11,517,107		
流動資産合計	162,531,211	流動負債合計	16,922,385
2. 固定資産			
出資金	2,000,000	負債合計	16,922,385
固定資産合計	2,000,000	正味財産	147,608,826
資産合計	164,531,211	負債及び正味財産合計	164,531,211

監査報告書



NPO 法人国際協力 NGO センターより
2015 年に ASC2012 の認証を受けました。



非営利組織評価センターより
2019 年に佐賀県で初めて非営利組織の信頼性を表すグッドガバナンス認証を受けました。



持続可能な成長を実現するための世界的な
枠組み作りである「国連グローバル・コンパクト
ネットワーク (UNGC)」に署名をしました。

2022 | 2025

中期方針 | これからにむけて



「地球市民」とわたしたちの活動

他の人の幸せを自分の幸せとして感じられる人を「地球市民」と定義づけ、地域・日本・世界で活動する人材を育成しています。

わたしたちのミッション

世界平和と地域社会の持続可能な向上・発展を実現するため、地球市民が活躍する場を作ります。



ミッションに基づいた

3ヶ年方針

1 困難を機会ととらえ、地球市民を増やす

新型コロナウイルスの流行、ミャンマーでの政変、各地で毎年のように発生する災害。これらの困難な状況は、見方を変えれば「地球市民を増やす機会」にもなりえます。例えば、オンライン化、緊急支援の実施、支援者を巻き込むファンドレイジングなど、困難に直面したからこそ踏み出せた変化がありました。不確かな時代だからこそ、できることを積み重ねて信頼を築き、地球市民の志を持った仲間を増やしていきます。

事業・取り組み

- ・ 避難民の受け入れ
- ・ 災害時の在住外国人支援
- ・ ミャンマー復興支援 / 緊急支援の実施
- ・ オンライン交流
- ・ 社会課題を解決するファンドレイジング

2 地球市民が連繋する場をつくる

これまで当会は、志を同じくする「地球市民」を輩出してきました。国内外を問わず、たくさんの地球市民たちがそれぞれの場所で活躍していますが、これまで連繋する場がありませんでした。40周年を迎える今、改めて、各地に点在していた「地球市民たち」が繋がる場を作ります。地球市民たちが連繋することで相乗効果を発揮し、新たな価値の創造ができると信じています。

事業・取り組み

- ・ 40周年記念式典
- ・ 在住外国人支援のネットワーク構築
- ・ 奨学金のOB・OGの組織化
- ・ 農業研修受講者のネットワーク化
- ・ 支援者参加型の事業実施

3 地球市民が活躍しやすい組織を作る

ここ数年、現場に近い事務局スタッフは疲弊し、理事は昔のようなワクワク感を失っていました。団体が大きくなるにつれて、想いがあってもそれを実現しにくい組織になってしまっていたのです。これからは、平場での話し合いを重ね、スタッフや理事・会員さんがやりがいを持って、「地球市民」として活躍できる組織を目指します。具体的には、理事会制度改革、働き方改革、組織内助成制度の創出などを行います。

事業・取り組み

- ・ 組織内助成制度、基金創設
- ・ 理事会の制度改革
- ・ 事業部会制の導入
- ・ 働き方改革



私たちについて

団体概要

名称 特定非営利活動法人地球市民の会
 設立 1983年7月
 (2002年に法人取得、2010年に認定NPO法人となる)

活動対象国

日本国内、ミャンマー、タイ、スリランカ、中国、韓国

体制

本部事務局(佐賀) / 職員8名(ミャンマー駐在1名)
 ミャンマー事務所 / ローカルスタッフ22名
 会員数347名(正会員、賛助寄付会員、里親会員)

全国のネットワーク

北海道地球市民の会、地球市民の会東京
 地球市民ACTかながわ、地球市民の会ぎふ
 地球市民みえの会、神ノ戸有頂天倶楽部、愛媛地球市民の会
 北九州地球市民の会、地球市民の会福岡
 (一社) アイ・オー・イー、(一社) 和スポーツさが
 (一社) ユニバーサル人材開発研究所、(同) 業隠

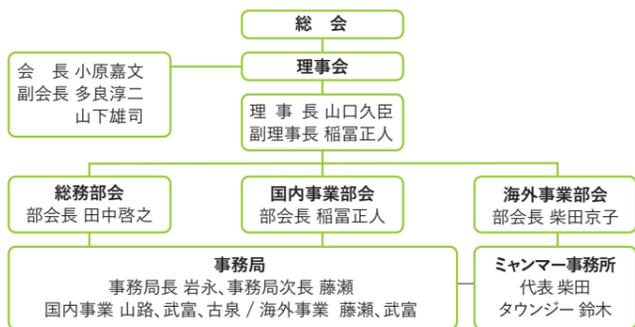
主な褒章

1988年 サントリー地域文化賞
 1989年 国際交流基金地域交流振興賞
 1994年 佐賀県県政功労者知事賞
 1996年 自治大臣表彰
 1996年 厚生大臣感謝状
 2000年 外務大臣表彰
 2003年 にしぎんアジア貢献賞
 2006年 地球倫理推進賞
 2006年 文部科学大臣奨励賞
 2017年 かめのり賞
 2017年 社会貢献支援財団賞

地球市民の会38年の歴史

1973年 「佐賀フランス研究会」設立(地球市民の会の前身)
 1980年 「古賀英語道場・佐賀日仏文化会館」設立
 1983年 「地球市民の会」設立
 1986年 第1回小さな地球計画開始
 1987年 日タイ協力事業開始
 1988年 日韓交流プログラム「かちがらす計画」開始
 1990年 地球市民奨学金開始
 1992年 人間の持つべき文明「テラアビール」発表
 1993年 地球共感シンポジウム、アジア太平洋協力会議 実施
 1995年 地球市民運動全国会議実施、スリランカ協力事業開始
 2002年 NPO法人格取得
 2003年 ミャンマープロジェクト開始
 2008年 創始者 古賀武夫 逝去
 2009年 人間の持つべき文明2009「テラアビール2009」提唱
 2009年 佐賀市中山間地地域づくり事業開始
 2010年 国税庁より認定NPOとして認定
 2011年 ASC2008認証
 2011年 東日本大震災復興支援事業開始
 2013年 創立30周年記念・北澤氏講演会
 2015年 ASC2012認証
 2016年 平成28年熊本地震支援事業開始
 2017年 非営利組織評価認証
 2017年 タイ地球市民奨学金終了
 2018年 地球を翔けた異風者 古賀武夫伝 出版
 2019年 グッドガバナンス認証
 2019年 佐賀豪雨災害支援開始(佐賀災害支援プラットフォーム結成)
 2021年 地球市民共生事業開始

組織図



役員

永久名誉会長 古賀 武夫
 名誉会長 山口 祥義 佐賀県知事
 名誉副会長 坂井 英隆 佐賀市市長

顧問 井戸 敏三
 顧問 井崎 和也 国際課課長
 顧問 稲田 繁生
 顧問 今村 雅弘 衆議院議員
 顧問 大串 博志 衆議院議員
 顧問 小原 健史 (株)和多屋別荘会長
 顧問 小山 高生 脚本家
 顧問 坂井 学 衆議院議員
 顧問 薩摩 和男 (株)美々卯社長
 顧問 三遊亭 園歌 落語家
 顧問 上甲 晃 志ネットワーク代表
 顧問 草場 一壽 今心工房 陶彩画家
 顧問 中尾 清一郎 (株)佐賀新聞社 代表取締役社長
 顧問 古川 康 衆議院議員
 顧問 原口 一博 衆議院議員
 顧問 平湯 慎介 平湯コーポレーション 代表取締役社長
 顧問 福岡 資彦 参議院議員
 顧問 マリクリスティヌ 有限会社エムキューブインターナショナル
 顧問 牟田 清敬 牟田法律事務所弁護士
 顧問 山下 雄平 参議院議員
 顧問 児玉 浩明 佐賀大学学長

特別会員 青柳 達也 佐賀女子短期大学
 特別会員 有岡 大介 株式会社 ライフプロ 代表取締役社長
 特別会員 鶴丹谷 清和 TUマネジメント株式会社 代表取締役
 特別会員 古賀 大之 一般社団法人和スポーツクラブさが 理事長
 特別会員 小松 敏正 小松商店 金属部代表
 特別会員 佐藤 昭二 一般社団法人ふる里再生協会 専務理事
 特別会員 副島 正幸 潮音寺住職
 特別会員 田島 広一 田島株式会社 代表取締役
 特別会員 平野 喜幸 NPO法人れんげ国際ボランティア会ミャンマープロジェクトディレクター
 特別会員 藤 雅仁
 特別会員 前田 英彦
 特別会員 満岡 聡 満岡内科消化器科医院 院長
 特別会員 峰 悦男 峰公認会計士事務所 代表
 特別会員 宮地 大治 (株)佐賀電算センター 代表取締役社長

会長 小原 嘉文 嬉野温泉観光(株) 代表取締役社長
 副会長 多良 淳二 佐賀県地域づくりネットワーク協議会 地域づくりアドバイザー
 副会長 山下 雄司 株式会社サガプリンティング 専務取締役
 理事長 山口 久臣 一般社団法人アイ・オー・イー 代表理事
 副理事長 稲富 正人 佐賀西部広域水道企業団 企業長
 理事 泉 万里江 小城市議会議員
 理事 柴田 京子 特定非営利活動法人地球市民の会 ミャンマー代表
 理事 多良 淳二 佐賀県地域づくりネットワーク協議会 地域づくりアドバイザー
 理事 田中 啓之 佐賀県総務部税政課 主任主査
 理事 鶴田 さゆり 佐賀県地域交流部空港課兼佐賀県健康福祉部医務課 主査
 理事 土井 敏弘 みどりや茶舗 代表
 理事 成尾 雅貴 株式会社あえる
 理事 西村 一守 Produce Office Nishimura PON 代表
 理事 西村 尚子 ステンドグラス工房 グラスバレット 主宰
 理事 古川 久美子 一般財団法人文化・芸術の泉アール・フォンテヌ主宰
 理事 藤戸 小百合 佐賀県農林水産部農業経営課 農福連携コーディネーター
 理事 増田 誠司 株式会社増屋 代表取締役
 理事 松尾 大輔 株式会社松尾クリエイション 代表取締役専務
 理事 百生 詩緒子 アイ・シー・ネット株式会社 シニアコンサルタント
 理事 山下 雄司 株式会社サガプリンティング 専務取締役
 監事 堤 素行 堤素行税理士事務所
 監事 深川 千幹 佐賀市教育委員会学校教育課学校問題サポート相談員

会長挨拶



小原嘉文

コロナにより想像もしなかった日常生活の変化を痛感し21世紀の科学・医学の力でも有効な解決が出来ない無力感を感じます。そしてウクライナ危機により、多くの避難民が発生していますが、ネットの情報を頼りに縁もない佐賀に避難してくる。これは驚くべき展開です。ウクライナばかりが目目されますが、私たちが支援を続けているミャンマーでは2021年2月の政変以来、悲惨な状況が続いています。ミャンマーにもウクライナ同様の関心を持ち支援を続けましょう。「他人の幸せを自分の幸せと感じられる人」が「地球市民」ならば地球上で起きている他人の不幸を自分の不幸として感じ、地球市民意識を再認識して活動していきましょう。

地球市民の会より皆さまへ ご支援のお願い

地球市民の会は皆様のご寄付によって支えられ、活動ができております。会員、寄付、ふるさと納税、ボランティアなど、様々な方法で皆様のご協力を募っております。地球市民の会へのご寄付は寄付金控除の対象です。

action A

寄付で支援する

1 地球市民の会の活動を支える >>> 地球市民サポーター 月 1,000円～

「世界中の人がお互いに支え合い、人の幸せを願える社会を作る」地球市民の会の国内外の活動を支援します。

2 こどもたちに学ぶ機会を提供する >>> 奨学金サポーター 月 1,000円～

ミャンマー、スリランカの2か国で、経済的に困難を抱える高校生をはじめとしたこども達の教育支援を行っています。現在はコロナ禍やミャンマーの混乱の中でも学びの機会を届ける支援に注力しています。

3 今、苦しんでいる人に寄り添う

>>> 地球市民ファンド

災害、紛争、クーデター等で、被害に遭われた方々への緊急支援を行うための基金です。2022年度はウクライナおよびミャンマーへの支援を予定しています。

>>> ミャンマー復興支援基金 月 1,000円～/都度

ミャンマーの政変後、人々の命や生活が脅かされている危機的状況の中で、地域住民に寄り添った迅速な支援を行っています。

4 佐賀県 ふるさと納税

佐賀県へのふるさと納税を通して、NPO支援ができます。地球市民の会を選んで、ふるさと納税をするだけ!佐賀県内在住の方も、ご寄附は可能ですが、総務省からの通知により返礼品などをおりできませんの予めご了承ください。詳しくは検索! [「ふるさと納税 地球市民の会」検索](#)

毎月2,000円の寄付で
ミャンマーのこどもが
学校に通えるように

5,000円の寄付で
5人家族1ヶ月分の食費に

action B

物品の寄付で支援する

1 古着(ブランド品)

ブランド品(洋服やバッグなど)は買取サービス「Brand Pledge」を通じてご寄付いただけます。

[Brand Pledge 地球市民の会](#) [検索](#)

2 貴金属・カメラなど

お宝エイドで自宅に眠るお宝品を査定して、査定額に10%を上乗せした額が、奨学金支援に繋がります。

[お宝エイド 地球市民の会](#) [検索](#)

3 古切手、書き損じはがき

未使用の切手、消印のある使用済み切手、余った年賀状や印刷間違えて出せない官製ハガキを事務局までお送りください。

action C

ボランティア・インターンとして参加する

随時募集しています。興味のある方は、事務局までお問い合わせください。

ご支援は
こちらから



お申込み・お問合せ

地球市民の会 事務局

0952-24-3334

〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
 office@terrapeople.or.jp http://www.terrapeople.or.jp



認定NPO法人地球市民の会

〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10

TEL 0952-24-3334 FAX 0952-26-4922

業務時間 土・日・祝を除く 9:00-17:30



MAIL office@terrapeople.or.jp

HP <http://www.terrapeople.or.jp>

